

鉞子口の舟海より着くなり跡より追かけし越後勢安からず
思ひ返せしと叫りて矢を射たり舟渡に走り清九
郎渡し舟を呼て清河迄走り玉へ中く酒田迄款方内
通の者有と云ふ處ありしとて宮の浦の者を呼て立舟を催し
多量に追手の兵大勢群つて射する中し物忌の者歟
只三人成るに矢を射て云甲斐ふし突落をぞ下知れり
舟は林兄弟引返し長刀を打拂ひ追手を思はざり
はかり引退く舟は林狩も船入りけり流石の大勢二人切
先に退き舟を引退く舟は林主は難なく渡場に至り息
をき居るに敵も怖れを追来りも其うち舟を調ひ打

つて大勢の兵は越後の人々是と走り叩きまゝとて静
かなるのほり梶取二人は櫓を押さて汝ら此浦の者死
我ら寂上村山郡沼ノ平館主舟は林集人進み子に郎
大妻と云ふ兄弟の者あり此夜の働を見事と後ち人々語り
多量にけ方の常犯大妻ありと銀子を取らせり二人分
梶取のりくともも押おに殺しあへく明けに砂越表と云
所にて成政方の冒成に云ふ多量今夜先をけしてか程に走
戦い勞れりといふと橘山を敵に落されおとくと寂上
へ帰らん明日も義光公後諸ある時父の留主位を打捨て
牧場の家の子計死をせし主従三人の一生跡を馬にも榮を見